

り、遠く阿武隈山脈を眺み、次第に白々と明るくなる様子はとても綺麗です。まるで毎朝、元日の朝を迎えているようで清々しい気持ちになります。今日も新しい一日を迎えられた感謝と喜びの、至福の時間です。

ところで、お寺の鐘はどなたにも自由に撞いていただける鐘でございます。これから来る大晦日の除夜の鐘だけでなく、朝は6時、夕方は5時に毎日撞いていますのでご希望の方はどうぞいらして下さい。そして、鐘をご縁にしているんなお話ができれば嬉しいと思います。

是非、お寺に遊びに来ていただきたいと思っております。年末年始寒い時季になります。お体に気を付けてお過ごし下さい。ありがとうございました。

除夜の鐘・・・大晦日午後11時より。

紅白鐘もち（先着一〇八家族）、甘酒、年越そばでおもてないたします。（なくなり次第終了になります）。

あけましておめでとございます・・・平成26年1月1日
あけましておめでとございます。皆様おすこやかで穏やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

大晦日の除夜の鐘にはたくさんの方々にお参りいただき、鐘もたくさん撞いていただきました。除夜の鐘の数は百八声と昔から言われています。煩惱の数が百八あり、それを一つ一つ潰していくのが除夜の鐘だと言われています。それで、その百八煩惱についてもっと詳しく聞かせてくださいという方もいらっしゃるようですが、私にはよくわかりません。

ところで、これは落語の話ですが、「酒は百薬の長」の百薬の数え方について何とも愉快的説があります。それは酒を飲むと笑い上戸は「わっはっはっはっ、はっば六十四」、逆に泣き上戸は「しくしくしく、しく三十六」、はっば六十四に、しく三十六を足すと百になる。だから百薬の長だといひます。

まあいずれしろ数にこだわるのではなく、あーそいうものかと楽しくお酒を飲み、除夜の鐘も今年を振り返り新年を祈る心でたくさん撞くというのが

賢い作法ではないかと思っています。どうぞお時間のある方は百八煩惱と除夜の鐘の關係についてお調べいただき、教えていただきたいと思っています。

さて昨年、南アフリカのネルソン・マンデラ元大統領がお亡くなりになりました。人権主義者、人道主義者の大統領で知られていた方でしたから、大変残念なことでした。

葬儀には世界の国々から多数の要人が参列し、その後、彼の御遺骨は故郷に葬られたと聞きました。そのニュースを聞いて、私は彼が大統領府のある首都にはなく生まれ育った故郷に葬られたことに対しある種の安堵感を覚え、ああ幸せな人だったと思いました。

どなたかの句に、「元日は冥土の旅の一里塚、めでたくもありめでたくもなし」と言う句があるそうです。新年を迎えるというのはめでたい事だけでなく、この世を去る日がまた近づいたよ、毎日毎日を大切に過ごそうよという意味だと思います。

しかし、毎日毎日を大切に過ごしていたとしてもやがてこの世とお別れする日は誰にでもやって来ます。その時であっても私が生まれ育った故郷は、いつでも平和でそして美しい世界であって欲しい。そ

こに私も葬って欲しいと思いつながら今年のお正月をお迎えしました。

昨年、私達が東京オリンピックの招致に浮かっている隙に、永田町では「特定秘密保護法」など、軍国主義の気配がする政治の企みが始まっている様に思えます。武力には武力で対抗するのはなく、戦争に進まない平和の力を磨き、そして育て、平和を大切にする生き方こそが人間を救うと強く信じます。そうでなければ、我が国がネルソン・マンデラ氏の葬儀に参列した意味がありません。

長泉寺の梵鐘には「二十一世紀平和祈念鐘」と刻印されています。大きな音で鳴り、残響の豊かな一里鐘です。平和祈念の心が遠くまで届く一年になつて欲しいと思います。

還暦・・・平成26年1月15日

私事ながら、私は昭和29年の午年生まれ。いつの間にか還暦を迎えました。馬齢を重ねるとはこ

ういうことかと苦笑してしまいます。

さて、午年生まれの人の守り本尊は勢至菩薩（大勢至または得大勢なども訳される）で、阿弥陀仏の右脇侍（わきじ）として立たれ、智慧をあらわす菩薩さまであります。ちなみに阿弥陀仏の左脇侍として立てられる仏さまは観世音菩薩で、慈悲をあらわしています

勢至菩薩は智慧の光で人々を照らし、菩提心を起こさせ、苦しむ者に無上の力を与えてあらゆる苦厄から解放するといわれています。

長泉寺にも立派な勢至菩薩像がお祀りされています。十年程前、市内君萱にお住まいの篤信のご婦人さまより寄進されたものです。1月末日まで本堂に安置しておりますので皆様ぜひお参りされて下さい。

今年の第58回有馬記念レースでは、オルフェーヴルが2着馬に8馬身差をつけて圧勝。疾風の如く走り抜き、有終の美を飾りました。あやかりたいものです。

皆様方の一層のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

涅槃会摂心（坐禅会）・・・平成26年2月5日

先日の節分豆まきには大勢の方々にお参り頂き、にぎやかに豆まきをさせていだきました。ご褒美のおやつは五百袋用意したのですがほとんどなくなりました。ですから、それくらい大勢の方々がお参りにおいでいただいたと嬉しく思っております。

当日、豆まき前の挨拶の中で、私は、心の中にいる「意地悪な鬼」を追い出して仲良し福、ニコニコ福を増やそうと子供たちにお話をさせていたできました。私たちの心には良い心とイタズラな悪い心が同居しています。良い心を伸ばすことによって、悪い心の居場所を無くすことが大切です。私たちの良い心を沢山伸ばすよう毎日正しく、まいた種が良い花を咲かせるよう毎日正しく生きていきましょう。そのようにお話をさせていただきます。



さて2月15日は、「涅槃会」ねはんえ。二千五百年程前

にお釈迦様のお亡くなりになられたご命日です。長泉寺では江戸期の作品と言われております大きな涅槃絵図を本堂に掲げ、1日からこの15日まで釈尊最期の説法である「仏遺教経」というお経を誦し、お参りをさせて頂いております。

さて、ご存知かもしれませんが、長泉寺は悲しいことに明治元年に全焼してしまいました。その後、本堂は角田の臥牛城解体の材料をいただいて建て直しをさせて頂いたなど、お寺を復興することに様々苦心いたしました。

現在掲げている涅槃絵図も、その掛図の裏にこの

掛図は明治9年12月に三河亀蔵さんというお方が中心となり、その三河さんと長泉寺の住職、他に百九十八名のお檀家の方々合計二百名で浄財を出し合ってこれを求めたと記録されております。ですから、お参り頂くとその掛図の裏に皆様方のご先祖様のお名前が記さ



れているかもしれません。是非お参りをいただきたいと思えます。そしてお釈迦様をお偲びし、私たちの人生を省みて、毎日の生活を正しく、そして皆と助け合って生きようとお心に誓って頂きたいと思えます。

生意気ですが、このような仏縁により諸悪莫作（しょあくまくさ）・衆善奉行（しゅぜんぶぎよう）・自浄其意（じじょうごい）に近づくことが出来ると信じています。

これに合わせ2月8日から2月11日まで4日間ではありますが、涅槃会摂心、坐禅会をしたいと思っております。どうぞお気軽にご参加下さるようお願いしております。每晚7時から9時まで坐禅をします。その坐禅の間にお話をいたします。椅子等も準備してあり、坐禅堂も暖かです。姿勢を正しく、心静かに坐ってみましょう。

立春を過ぎたとは言え寒さが厳しくなる時期でもあります。どうぞ、お風邪など召さぬよう健康に注意していただき、それぞれのポジションで活躍されますようお願いいたします。ありがとうございました。

啓蟄は口の中から・・・平成26年2月15日

3月6日は啓蟄です。啓蟄とは一年の二十四節の一つで、春分の日^の15日前が当たります。したがって、今年は3月21日が春分の日ということになります。

啓蟄とは、冬ごもりをして土の中に隠れていた虫が動き出す季節と言う意味で「啓」というのはひらく、拝啓の啓です。つまり土を啓(ひら)いて虫が這い出してくる意味です。

啓蟄という言葉に対して逆に虫が土に閉じ籠もることを指す「閉蟄」という言葉もまたあります。これは冬になって虫が土の中に潜って冬を越す季節という意味です。(但し、閉蟄は二十四節にはありません。)

さて、この啓蟄の頃になるとなぜか私は毎年歯の痛みを覚えます。周囲の人に訊くと私ばかりでなく春先になるとなぜか歯が疼き、具合が悪くなる方もいらっしやるようで、季節と私たちの身体は何か関係があるような気がします。

木の芽が芽吹く頃にも体調を崩される方が多いと古老の方々から聞いた事もあります。そのように自

然の命が動き出す頃、不思議に体調を崩しやすいのではないかと思えます。

ところで、篤信^{とくしん}の信者さんに山下道也先生がいらっしやいます。この方は東京で歯医者さんを開業されている先生です。先生は歯科の名医として名高いばかりでなく、私どもの曹洞宗高祖道元^{どうげんぜんじ}禅師について非常に勉強をされており、とくに道元禅師が書かれた「正法眼蔵洗面の巻^{しやうほうげんざう}」について深く研究をされております。

道元禅師は真実の正伝の仏法を求めて中国に渡り、その時に非常に口臭を感じ、人様に不快な感じを与えるのは仏行に背くことであると悟りました。

そこで「洗面の巻」を著し、「楊枝」(今の世の中で言えば歯ブラシ)の使い方、舌の磨き方まで「三千^{さんぜん}(威儀経^{いぎきやう})」等を引用しながら丁寧に説かれました。山下先生は、自分が信心している高祖様がこのような御作法まで示しているということに驚き、道元禅師のような心構えと作法に従って現代流に口の中を清潔に維持することはできないかと研究され、口の中、特に舌を拭うシート(Tーシート)を開発されました。

そして、先生はこのシートを3年前の3月11日の東日本大震災で私たち東北人が被災し水が使えないような状態のときに自ら車を運転して被災地に届け、水がなくて歯磨き出来ない多くの方々にお配りをされました。

Tーシートで口腔内を拭くだけで水を使用せずともサッパリし、清潔になるといふことで、幼児、お年寄り、特に女性の方々は大変喜ばれました。私たちミネ幼稚園にもおいでいただき、また山元町等いろいろなところに行かれ、避難生活をされている方々にどうぞこれを使って下さいと歩かれた姿は被災地で話題になったほどでした。

自分の職業を通じて慈悲行・布施行を行せられ、まさに道元禅師のお教えに従った実践行を歯科医の白衣を着た先生が行じられた事に敬意を表するとともに、信者さんの一人であることを私は嬉しく思っています。

話を戻しますが、前述した啓蟄の啓の字に歯と書いて「啓齒(けいし)」という熟語もあります。これは歯を見せるといふことから、笑うという意味になります。

春は卒業・入学、嬉しい時期です。花も咲き楽し

い時期でもあります。早速私も主治医の歯医者さんに行き、さわやかな口で笑顔で愛語を伝えねばなりません。ギックリ腰になったり、加齢にもなつてあちらこちら身体にガタが来ていますが、還暦なりの春を迎えたいと念願しています。ありがとうございました。

柳に雪折れなし・・・平成26年3月1日

おはようございます。

先日の文章をお読みいただいた方々から何通かお便りを頂きました。山下先生の歯科医院を紹介して下さいとか、方丈さんはもう歯医者さんに行かれましたかとか様々お便りを頂きました。嬉しく思っております。

まず私ですが、すでに主治医の歯医者さんに行つて治療中です。「虫歯の虫が這い出してくる」ことから、啓蟄と虫歯をひっかけて文章を書いたのですね。なかなか洒落てます。」と冷やかす

お便りもいただき、うふふと笑いました。ともあれ、ホームページを覗いていただく方が増えてきてありがたいです。

さて東風解氷の候とは言え、このたびの大雪には非常に驚かされました。皆様方のご家族やお住まいにも被害があったのではないかとお見舞い申し上げます。

長泉寺では積雪で屋根の軒が破損する被害を被りました。については、皆様方にご迷惑がかからぬよう早急に復旧に努めたいと考えています。

実は、2月17日から20日まで大本山永平寺で「曹洞宗師家会」の本山研修が予定されており、私も出席を予定しておりましたが、この大雪でやむなく欠席する羽目となって、この被害・・・、幸か不幸か分かりませんが、私がいたことで直ちに対応を始める事が出来、助かったと思いました。

例年、2月、3月は、両本山初め各修行道場に新しい修行僧が入門をする季節です。高校、大学あるいは社会を出た数多くの掛搭僧（入門志願僧）が入門して参ります。けれど、掛搭僧が想像している以上に厳しい生活が修行道場には待っており、それに怯んでわずか2、3日ひどい人はその当日に修行を

あきらめて去って行く者がいます。残念ではありますが、しかし山門は常に開いて入門者を待っています。何度でも再チャレンジして上山して欲しいと思います。

人間、何でもやってみると後で振り返れば、あの時頑張つてよかったという事が必ずあると思います。「いまの一当はむかしの百不当のちからなり」（『正法眼蔵』説心説性の巻）という言葉があります。私たちがの人生にはおよそ失敗も成功もなく、自分の今ある人生には必ず意味があります。大切なのは、ただ失敗するのではなく的に当たる失敗をすることです。その失敗を積み重ねることを努力と言い修行と言います。

レヴィストロースという学者が何かの本に書いていましたが、人間はその時、退歩的と見えても、それはみんな進歩、進化している事だと述べています。目先の事で、一喜一憂しない凶太い精神と困難にくじけない柳のようなしなやかな心を持ちたいものです。

・・・行仏道の初心のとき、未練にして通達せざればとて、仏道をすてて餘道をへて仏道をうることなし。仏道修行の始終に達せざるともがら、

この通塞の道理なることをあきらめがたし。

仏道は、初発心のときも仏道なり、成正覚(じゃうしゃうがく)のときも仏道なり、初中後ともに仏道なり。たとへば、万里をゆくものの、一步も千里のうちなり、千歩も千里のうちなり。初一步と千歩とことなれども、千里のおなじきがごとし。

『正法眼蔵』説心説性の巻より。

3年目の3月11日・・・平成26年3月12日

おはようございます。

3月11日は今年で3年目を迎えた東日本大震災追悼の日です。長泉寺でも犠牲になられた方々の慰霊の法要をさせていただきました。

震災が発生したその日、私は岡山県矢掛町にある洞松寺専門僧堂において研修中でした。午前中、岡山テレビの取材を受け、どうして修行するのですか？とか坐禅は何のためにするのですか？と言うようなりポーターからの質問に大きな災害が間近に

迫っているなどとは露知らず、呑気な返事で話をしていました。

そして昼食をはさんで、午後から瑩山禅師の『伝光録』の一章を研修員の前で話をし、ホットひと息ついたところに自坊からけたたましい突然の電話があり、とにかく大きな地震が起きて家中大変な事になっている、一刻も早く帰ってきて欲しいと言う悲鳴的な電話を受けました。直後より電話は不通。東北の状況が分かりません。けれど、洞松寺にはテレビもラジオも無く、取材のテレビ局もさあ大変とさっさと帰り、ようやく近くのお寺でテレビを見せられ大津波の様子に愕然。しかし、暗闇に向かって帰るのは危険と判断し、寝れぬ夜を過ぎて翌12日の新倉敷発の朝一番の新幹線で東京に戻りました。着いたのは午前10時頃です。

そうしたら東京駅はもう大変な人でごった返しをしております。東北新幹線も止まったままです。ただ一つ宇都宮線が走っており、電車は二〇〇%位の超満員ではありませんが、ためらうことなく私はそれに乗込み、発車まで2時間ぐらいそのギュウギュウ詰め電車の中で待ち、そ

れから4時間ぐらいかけて埼玉の久喜までやって来ました。

そこで電車を降り、ご本堂を作っていたいた鶴工舎さんの会社が栃木の塩谷町にあるものですからそこに電話をして車で久喜まで迎えに来ていただいて、そして久喜から四号線を北上して角田に着いたのが翌13日の朝4時頃だったと思います。

これが私の震災の体験です。ですから、本年も大震災の^{3.11}の日になって家族の者たちが当日は大きな揺れで死にそうだったとか、お寺の建物もみんな駄目になると思ったとか、そういう話をしてる時には、震災に遭遇してないのですから私はうつむいて話を聞くだけです。

さて、震災時その電車の中で驚いたことは、鮎詰め状態の車中でも酒好きな人は、いわゆるワンカッブを開けて飲んだり、焼酎を飲んだりして「じたばたしてもしょうがないんだ」というようなことをわめいたり、何かの団体の方でしょうか、我々のチームはどこそこについて活動するんだと自分たちの組織の支援についてPR的に打ち合わせをするグループを見かけた事です。

危機的な状況の中にあっても色々な人がやはり世

の中にはいるのだなあということをおは震災の時に勉強しました。

また、あの時、被災地では食料品や生活用品等の物資が瞬時になくなるということをお素早く察知していれば乾電池だとか水とかもって持ち帰ってあげられたと手ぶらで帰ってきたことが本当に悔やまれてなりません。とにかく、1分でも1秒でも早く家族の元という気ばかりが焦って帰って来てしまい、大事な時に私はいつもぼんやりとして何の役にも立たないなあをつくづく反省した次第です。

近頃は、災害に備えて防災グッズや非常袋を用意される方が多くなってきましたが、いちばん用意しなければならぬのはどんな状況の中にあっても冷静な判断が出来る心です。自分だけが先に助かればと言う気持ちではなく、他の人の安全を先に考える「自未得度先度他^{じみとくどせんじた}」の心を常に忘れないことです。

そしてこの心は頭だけの理解では育ちません。和合の社会の中での人と人との関わりからしか体得出来ません。私たち僧侶が自らを灯火として、教え導かなければならないことはただ一点、この

心の用心です。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りいたし、また一日も早い復興を祈りつつ震災の日の私の話とさせていただきます。

ありがとうございます。

面白い本・・・平成26年4月2日

おはようございます。

いよいよ4月から消費税が5%から8%に増税されました。そこで、3月は駆け込み需要と言うのでしょうか、いろいろなところで買い込み物を安いうちに済ませておこうという消費者がたくさん群がる光景がテレビで報道されていました。

さてこれは、3月29日付の読売新聞の編集手帳からですが「除夜の鐘 税込み価格で百八つ」という句があるのを拝見して、世の中にはうまいことを言う人がいるものだなあとひどく感心いたしました。

この句は、第一生命保険のサラリーマン川柳コンクールで入選一〇〇作品の1句だそうで、時節柄の

消費税アップを揶揄した句ではありますが、当然ながら、除夜の鐘は消費税があるうがななろうが百八つで、そこがバカバカしくてなかなか良い句だと思えます。

私もささやかな抵抗として消費税が安いうちに本を少しまとめ買いをいたしました。本といっても何十万円もする本を買うわけではありませんから、本当にささやかな抵抗です。

その中に、昨年1月に岩波新書から発行されました「面白い本」という本があります。この本の著者は成毛真真なるけまことさんと言って、一九九一年から二〇〇〇年まで10年間マイクロソフト社の代表取締役社長をお勤めになられた方です。

成毛氏が推奨する面白い本を二〇〇冊紹介してあるわけなのですが、その本の135頁から136頁に亘って、「様々な仕事」ということで手前ども長泉寺の本堂建立記『鵜工舎の仕事』（文藝春秋社）の本の紹介をいただいております。周知の通り、これは本堂が落成した平成20年10月に御檀家の皆様方全員にお配りをさせていただいた本です。

岩波新書を手にして、この本が成毛氏の推奨する一〇〇冊の本の中選ばれてあったということ

に非常に驚き、また大変うれしく思いました。以下に成毛氏の文章を紹介します。

さまざまの仕事（「面白い本」一三五頁から一三六頁）

宮大工とは、寺社仏閣の建築、修復に関わる大工のことをいう。彼らが建てる寺社仏閣はもちろんだが、そもそも宮大工という存在自体が文化財といえるかもしれない。

「^{いづれか}鵜工舎の仕事―長泉寺建立記」（塩野米松著）

は、法隆寺最後の宮大工と呼ばれる故西村常一氏を紹介した「木に学べ」（西岡常一著、小学館）で知られる作家の著作



だ。本書は、二〇〇八年九月に落慶法要された東北最大規模の寺院本堂建立に関わった奈良の宮大工集団、鵜工舎の仕事ぶりを描いている。

本書によると、この本堂は少なくとも数百年はもつという。しかし基礎は二〇〇年ほどしかもたないというのだ。なぜかといえば、昔の工法では建築許可が下りないため、やむをえずコンクリートにしたから

だという。日本古来の建築技法のための必要条件を、今の建築の法整備が阻害しているのも不思議だが、そんな技術が時代を超えて継承されていることにも驚かされる。仏さまがお座りになる本陣の床は台湾製の檜で樹齢は二〇〇〇年のものだ。本書は、棟梁のみに焦点をあてた本ではない。材木や基礎、左官、瓦など、さまざまな職人のエピソードも盛り込まれている。そこが本書を価値のあるものになっている。

古来から伝わる寺社建築の機能美には終始驚かされどおしだ。歴史に残る仕事は、遙かな時代を超えてみせるのだ。

だからどうだというわけではないのですが、より多くの方々にこのような立派なご本堂にお参りされる勝縁を結んでいただき、一層長泉寺に対して御信心を賜ればありがたいと願っています。

また私も、皆様の御信心にお応えできる住職として更に弁道精進に励まねばと意を固くしています。

新年度もよろしくご法愛賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございますございました。

おはようございます。

桜花爛漫の好時節を迎えました。今年もお寺の桜は見事に咲き、境内は花見の客やカメラマンで賑わっています。

4月10日はミネ幼稚園の入園式で、新入園児はこの花咲く綺麗な園庭に明るく元気に登園



してきました。嬉しい季節です。桜の木の下で入園記念の写真を撮る親子の姿はみんな幸せそうな表情で、園長の私も嬉しく幸せな気分になりました。

さて3年前の震災の後、復興を応援する「花は咲く」という歌が日本中で歌われましたが、当然ながら桜の花も環境が整わなければ咲きません。つまり、厳しい冬が過ぎ、気温が上がれば雪が消え、十分な春のお日様の輝き、水分、栄養等々、そのような環境が整って初めて咲くものです。ただ種を蒔き歌を歌っていけば花咲くというわけではありません。

ですから、復興を応援する歌もよろしいですが、復興が進むような目に見えたアクションが必要で、

それによって環境を整えなければ被災地には決して花が開かないということも私たちは理解をしなければなりません。一層のご支援を被災地の方々にお願したいと思います。

さて長泉寺とミネ幼稚園では、平成22年度からいわゆるペットボトルのキャップを集めて最終的にはそれを認定NPO法人JVCに送り届けて、小児マヒから子どもたちを守るポリオワクチンとして送り支援するというエコキャップ活動をしています。別表の通り平成25年度は四六八キロのペットボトルのキャップをご協力いただき、平成22年度からの累計は一五七二キロも集まり、送らせていただくことが出来ました。ペットボトルのキャップを1個2.5gと計算して、そのキャップが八〇〇個すなわち²kgでポリオワクチンが1本(約20円)まかなえるという計算です。平成25年までですと一五七二キロですから、この活動を開始してからこれまで七八六人分のポリオワクチンを送ることが出来たこととなります。

この数字を多いと見るか少ないと見るかはそれぞれの人のご判断だと思えますが、ともあれ人のために役立つ活動というのは目に見える大きなも

のではなく、小さな小さな地味な積み重ねがあつて初めて成しえるものと信じます。何事も、継続的な努力が必要です。エコキャップ活動にご支援、ご協力をいただいている多くの方々にあらためて心より御礼申し上げます。

エコキャップ活動

ペットボトルのキャップを集めて、リサイクル工場に売却したお金を

内閣府認証のNPO法人「エコキャップ推進協会」に寄附して、世界の子供たちにポリオワクチンを届ける、という活動です。

図は「長野県・佐久の情報サイト『あさま日和』の編集長ブログ」より掲載させて頂きました。

当サイトの環境活動報告の頁にも内容を掲載しています。



学力テスト・・・平成26年4月25日

おはようございます。

4月22日に全国一斉学力テストが行われました。翌日の新聞にその問題が載りましたが、非常に面白い問題が今回たくさんあったように思います。私が興味深く思ったのは小学校算数Aの問題です。

小学校6年生の問題ですが、その算数Aの5番の問い、これは日本の伝統文化に関する問題でした。

5番の(1)の問題は畳の敷方についての問題です。まず、畳の敷方には約束事が3つあり、1つは床の間に畳の長い辺を合わせる、2つ目は出入りに畳の長い辺を合わせる、3つ目は畳の四つの角が1カ所に集まらないようにする。この3つの約束事があって私たちの部屋に畳が敷いてある。まず、そういうルールを子供たちに教えて、では、床の間・出入り口付き6畳間の畳の敷き方を実際に図に描いてみましょうという問題でした。

この問題にチャレンジした子供たちはテストが

終わったら、きっと自分の家の畳の部屋や身の回りの様子が気になって、より意識を持って見るようになるのではないかと思います。

おっと、前置きが長くなりました。私が今日お話ししたのは、その2番目の問題「使いやすい箸の長さについて」の質問です。ちょっと読んでみます。「使いやすい箸の長さの目安は、一咫半ひとあたまんと言われています。「ひとあたま」とは親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。1咫半は、1咫を1.5倍した長さです」と、図を使ってまず説明されています。親指と人差し指を直角に広げた時の単位、これを1咫ということをして小学校6年生で覚えるだけでもすごいと思います。

ところで、市販のお弁当を求めるとお弁当についてくる箸がいやに短くて使いづらいと感ずることが多くなりました。皆さんの中にもそう感じられる人もいると思います。どう見ても1咫位あたの長さです。これくらいケチってどれ程の節約エコになるんだろうかと考えてみる必要があります。

また、外出場所で用を足す時、蛇口から流れる水が寂しげにちよろちよろとしか流れない手洗いが多くなりました。手を洗うとすると水量が少ないた

め、どうしても洗面台のへりに手が触ってしまいます。指が当たって不便ですし、また不愉快です。

そんな時、節約エコと言うのはさてどういことなんでしょうかと思えます。節約しすぎて使用に不便さを覚えることはエコとは言えないのではないかと、ただ単にケチっているだけではないかと思えてなりません。不便さを与えるエコ活動と言うものは本来あり得ないと思いますが、皆さんはどう思われますか？

脱線しました。箸の長さとお咫の話に戻ります。使い易い箸の長さが1咫半ということ覚えておくと、子供たちにとって使いやすい箸の長さがお母さん方にはすぐわかります。さらに1咫あたは身長10%の長さに相当することもこの問題の中で説明されています。つまり、自分の子供の身長が130センチだったら1咫は13センチそれに6.5センチつまり約20センチの長さの箸がその子供にふさわしい箸であることを教えてくれる問題でもありました。

余談ですが、昔の人の身長は大体一五〇〜一六〇センチぐらいだと言われています。今、仮

に一五〇センチと計算すると一咫はその10%つまり10分の1で15センチになります。三種神器の一つである八咫鏡の周辺の長さは15×8で120センチ、円周率を^{3.14}とすると120÷3.14で大体直径38センチ位の鏡これが八咫鏡となります。また、八咫のカラスは体長120センチの大きなカラスだったということがわかります。その八咫のカラスの導きで神武天皇が熊野から大和に至る道を進んで行かれたのですね。

一つのことからいろいろなことに興味を持って学習できるように生徒を指導するのは現場の先生の役目だと思えますし、また、大人にとっても面白い、良い問題がたくさんあった今回の学力テストだと思います。

私たち僧侶が取り組む修行も教えられることを待っているでは遅すぎます。日常生活そのものが修行であるという事、毎日毎日の自分の生き方に正面から取り組むという事、結局、「平常心是道^{びんねいしんじょう}」というのはこういう事だろうと思います。大変失礼いたしました。

竹雨松風・・・平成26年5月14日

おはようございます。

私の父であり師匠でもあり、また長泉寺41世の住職、つまり先の住職を勤めた奥野泰弘師は平成14年5月13日に81歳で遷化（逝去）しました。

今年は正当13回忌に当たりますので、去る5月9日に私が講師を勤めさせていただいている大本山総持寺祖院監院の今村源宗老師に焼香師をお願いをして法要を営みました。

親は左利きで非常に手先が器用でありました。多忙な檀務の中、様々な材料を集めては暇な時間を見つけて工作するのが唯一の楽しみとしました。法衣を着たときの厳しい表情の僧侶の顔から普通の父の顔に戻って工作する姿に、私は本当の親の姿を見ておりました。

竹を自分で火に炙り、角度を工夫しながら曲げて作った孫の手2本が今も残されていますが、それは非常に絶妙な角度で、我が家ではテレビを見ながら四半世紀も愛用させていただいています、アハハ・・・。孫の手は一例ですが、その他にもいろいろ親が作った小物が沢山残されており、そ

ういうものを使つたびに親の顔が思い浮かびます。

さて私たち僧侶が法要で使用する法具の一つに「笏こく」というものがあります。その笏も自分で作ったものがあり、黒檀の棒を自分なりに削り、その裏面に「竹雨松風(ちくうしょうふう)」と、それから自分の名前を「長泉泰弘」と小刀で削って刻銘したものがありません。1周忌法要の時に、今度は白檀の木でそのレプリカを私が作り(業者に作らせたのですが)、参列して下さったお弟子の方々にさしあげました。

「竹雨松風」という言葉は、普通は「雨竹松風」というのが通例で、親は何か間違い事をしたのではないか、とそのレプリカを作るときに思いました。けれども、何か意味があつて竹と雨の字を逆にしたのかもしれないとも思い、それはそれなりにして、そのまま親の字体そのままに笏に複製して皆さんにお別けいたしました。

その後、「竹雨松風」の文言についてお弟子の方々からは何もご意見がなく、それも寂しいといえは寂しいですけど、ともあれ、先人が遺したものは何か意味があるのだろうと私はいつも考えております。

前述したように、親は左利きでした。祖父も左利きでした。私も左利きです。私の次男も左利きです。見えない遺伝子というのは、こうして代々確かに受け継がれ残されているのだと実感しています。

皆様方にもご自分のご先祖様、ご家族様を思う時、何かそういう見えない事、見えないものを感じる方もいらっしゃると思います。その見えないところに私たちは何かありがたさ、不思議さというのを、また感じなければならぬのではないかと思います。失礼いたしました。

木々のみどり・・・平成26年5月28日

おはようございます。

今朝(5月21日)は久しぶりに雨の天気になりました。鐘を撞いて境内の木々を見渡すと、この雨に樹木がうっとり葉を垂れ、空からの雨の



シャワーをうれしそうに受けている感じがしました。雨の景色を眺める私の気持ちも清々しくなりました。

先日、消防署の会議に出席しました。席上、署長様より、空気が乾燥すると火災が発生しやすくなる。特に山火事など、焚き火による火災の発生が高いと言うお話をいただき、私たちのちよつとした不注意で大火災ともなり、この大切な自然を損なってしまう。一層火の取り扱いに注意をしなければならぬと訓示をいただきました。

先月、4月20日から22日まで3日間に渡り山内の樹木の剪定をいたしました。

作業を依頼した業者の方は伊勢神宮や日光東照宮の樹木を管理されている和氣瀧親方で、「吊し切り」という特別な作業方法で枝を払い木を切るという軽業師のような方です。クレーンで幹や枝を吊り、高所から順々に切り落とす伐採の様子を下から見ていると、私の方が目が眩むようでした。

さて、親方である和氣さんのお話によれば、暦の中には「八専」と言う言葉があって、この八専の期間に樹木を切れば、夏の時期でも木は枯れないということでした。

確かに今回の作業も八専の期間に当たり、4月末にもかかわらず切った樹木からは一滴の樹液も流れ出ませんでした。芽吹く時期で水をどんとと吸い上げているはずの樹木が不思議なことに樹液を出さない。つまり八専とは、樹木が生命の活動をちよつと一休みをしている時期に当たるのだなと言うことがわかりました。

また、木を倒すときに用いる斧には三本の線が入っている。この三本の線の意味は、昔、斧をかういで森に入り、そして目当ての木を伐採する時にその斧をその木に立てかけ、いわゆる木霊というか、その木に宿る神様に対して山海の珍味をお供えしそれからお酒をお供えをして手を合わせ、神々のお許しを頂いてから伐採する儀式をしたのだそうですが、お供え物がない時でも、お供えさせて頂いたことにするためにその名残がその斧の三本の線に象徴化されていると言う話もお聞きました。

職人さんには、その仕事における知恵と言うか心があるのだと驚き感心もいたしました。

普段、私たちは何気なく森を見、山を見ている訳ですがその陰には私達の目には見えない神秘

的な自然の力を大事にし、逆らわず、森を守って下さっている人達がいることをあらためて知り、つくづくありがたいと思います。

いま、東北の森や山は震災復興のためどんどん削り取られています。津波から人間の生活圏を守るため防潮堤や土地の嵩上げに大量の土が必要とされるからです。やむを得ないことです。しかし同時に、私達は自然に守られ生かされていることも忘れてはなりません。

人間のためだけに森を消滅させては貴重な動植物の生命まで奪うことになり、それはやがて私達の生命まで脅かすことにきつとなるのではないかと心配です。

森を守りつつ震災復興が出来るような、もっと良い手立てはないものでしょうか？。震災復興と同時に森の再生を是非お願いしたいものです。

溪声山色・・・平成26年6月2日

おはようございます。

新緑の良い季節になりました。筧を掃除したり、蹲踞を掃除したり、庭を手入れするのが楽しい時期になりました。

道元禅師の言葉に「池を作って月を待たず、月来たって池初めて成る」という言葉があります。これは、月が水に浮かべば良いと池を作るのではない。月が水に浮かんでこそ池が出来たと言うものだ、と言っ意味です。

この言葉は様々な解釈できると思います。例えば、お店を開いて大勢のお客さんが来れば良いと思うのは間違いで、大勢のお客さんがやって来てこそ初めてお店を開いたことになることも解釈できます。あるいは、お月様を悟りと解釈すれば、修行してその結果お悟りが開けると思うのは誤りで、お悟りの方がやって来てこそ本当に修行したことになることも解釈できます。意味深長な真実のお言葉だと思います。

さて、熊本県菊池市に聖護寺という有名な修行寺があります。お寺の法堂左脇間入口壁に、今

は亡き檜崎一光老師（老師は愛媛県新居浜市の瑞応寺専門僧堂の堂長、さらには大本山永平寺副貫首をされました）の御染筆によるこの道元禪師のお言葉の書が掲げられており、聖護寺に拝登させていただくとは必ず私はこの書を眺め、道元禪師と一光老師よりご指導をいただく気持ちで心を奮い起こし、そして下山することになっています。



聖護寺は非常に山深いところにあり、真に深山幽谷の地、いろいろな動物もやってきます。毒のあるマムシなども出てきます。それら全てを包蔵する仏法という自然・宇宙をありがたく感じます。

「溪声便是広長舌（けいせいすなわちこれうちょうぜつ） 山色豈非清浄身（さんしきあにしよ うじょうしんにあらざらんや）」。 「山河を見るは 仏性をみるなり」（『正法眼蔵』）、もまた道元禪師のお示しです。味わうべき季節です。

陰徳を積む・・・平成26年6月18日

おはようございます。

前回、菊池市・聖護寺での話を書きましたところ、読者の方から聖護寺での他の思い出等ありましたら聞かせて下さいと希望されましたので、もう一つ心に残るお話をさせていただきますと思います。

それは聖護寺から長泉寺に帰ってくる帰路の道中の思い出です。お話を申し上げたように聖護寺は山の高いところにありますので、帰るためにはバスターミナルのある菊池市の菊池プラザというところまでタクシーで20分から30分ぐらいかけて降りてまいります。そして菊池プラザから路線バスに乗り熊本駅で九州新幹線に乗り、博多あるいは大阪で今度は東海道新幹線に乗り継ぎそして東京で東北新幹線に乗り換えて長泉寺に帰って来ます。

ある時、菊池プラザで熊本市内行きバスを待ってありましたら乗客は私1人だけでした。それで運転手さんに「このバスは熊本駅に行きますか？」と聞きましたら「熊本駅通りますよ、どう

ぞお乗りください」と言うことで、私1人を乗せて
定刻になりましたのでバスは発車をいたしました。

ところが、次の停留所で「○○町1丁目、○○町
1丁目。お降りのお客様はおりませんか？いらっ
しゃいましたらブザーを押して下さい」と運転手さ
んが案内をするわけです。えっ！？他に誰も乗って
ないわけです。私1人だけ、しかも私は熊本駅まで
行くという事がわかっていているわけですからアナウ
ンスしなくても良いのではないか？何を言っている
のだろうと私はおかしくなりました。そしてまた次
のバス停に来ましたらまた同じように「○○町、○
○町。お降りのお客様はいらっしゃいませんか？」
その次でも「○○前、○○前。お降りの方はいらっ
しゃいませんか？」と言うのです。録音テープでな
く、それが全部運転手さんの肉声なのです。

しかし、最初は何を言っているのだろうとおかし
く思ったのですが、しばらく乗って、はっといたし
ました。私はこの運転手さんのバスに乗ってよかつ
たなと思ったのです。と言うのは、そのような運行
の規則と言うかマニュアル通りに運転手さんは運転
されていた事に気付いたのです。ですから「信号待
ちになりました。少々お待ちください」また「バス

走行中はお立ちにならないようお願いをいたし
ます。転倒防止にご協力ください」。乗客がいよ
うがいまいが、普通の運行と同じようにアナウン
スをしていたことが分かったのです。そこで、私
はこのような真面目な運転手さんが運転するバス
に乗せていただいて本当にうれしく、また有り難
いと思つづく感じました。

「陰徳を積む」と言う言葉があります。見てい
ないところでも正しい行いをするということであ
す。

人は自分の他に誰もいないと交通信号を守らな
かったり、スピードを守らなかつたりするもので
すが、ルールを守る守らないは、しているその本
人にしか分からないことです。

ルールを破れば、しめしめと思う人もいるで
しょうが、むしろそのことが自分の心を苦しめ、
罪悪感や嫌な気持ちを持つ人の方が多いのではな
いでしょうか？自分自身の行為によって自分の
心が晴れ晴れと快く、清々しい気持ちになるよう
に、正しい事は誰がいなくても正しい事をせず
はいられない。また悪い事はしようとしても出来
ない。そういう真面目な正しい生き方をこの運転

手さんから学んだような気がいたしました。ありがとうございました。

こころはしぐさに現れる・・・平成26年7月4日

おはようございます。

テレビを観ていると、芸能人の所作にいろいろな不思議さを覚える事があります。

例えば、私はお酒というのをほとんど飲みませんから分からないのですが、ビールのコマーシャルでジョッキでビールを飲むとだいたい決まって役者さんは「クウー！」と言いながら首を傾けておいしそうに飲むアクションをしますけれど、ビールを飲む人は本当にああいう事をするものかなと思います。また、芸能人の多くは何か面白い事おかしい事があると、両手を打って口を大きく開け「わはははあー」と手を打ちながら大笑いしますが、そういう事は私の周りの人たちはあまりしないように思えます。おかしい時はああやって両手を打つのが普通なものかなと怪訝に感じます。

さて、私は今あることに努力をしています。その一つは「戒尺」の音です。戒尺は主にご授戒会、またはご葬儀の時に合図として打つ拍子木ですが、この「カチカチ」という音がいつでも同じ音色で響くよう、密かに努力をしています。

もう一つは、いわゆる神社にお参りする時に両手を打つ拍手です。この拍手を宮司さんのようにいつでも同じ響きで「ポンポン」となるよう努力をしています。

簡単なように見えてもこれはやってみるとなかなか難しいことで、「戒尺」も「拍手」も、いつでも同じように響かせる、これにはかなりの熟練が必要であると私は思っています。お相撲さんの呼び出しのあの扇子の開き、あるいは拍子木など、それらも陰では大変な努力をされているなと思っています。

さて、ご葬儀やご法事の時、焼香されるお参りの方々の合掌と礼拝の姿を拝見すると、この方はいつも御仏壇の前や墓の前で、またお寺で合掌礼拝のお参りを重ねている人だなと感じたり、反対にこの方はほとんどお参りや焼香もされない方だなというのがわかります。身体にその作法が染み

ると言うか、馴染むと言うか、そういう礼儀作法と
いうのはやろうと思って出来るわけではなく、数を
積み重ねるうちに身体と心が一体のものとなって初
めて身に付くものだと思います。

信仰心が有るとか無いとか、そういう難しい話で
はありませんが、やはりそういうちょっとした立ち
居振る舞いにその人の心の一部が垣間見れるように
思います。

私たちの曹洞宗の言葉に「威儀いぎ即すなはちはつ仏法ぼつぽう、
作法さほう是これ宗旨しゆじ」があります。禅僧としての正しい立ち
居振る舞いこそが仏道に入る前提であり、毎日の生
活が正しく実践され、禅の行為が実現したところが
悟りの世界だと言う意味です。つまり、日常の言
動、行住坐臥に修行の姿が滲み出てこそ本物の禅僧
であり、またそのような修行を積まなければならな
いと言うことです。

昔から見た目は九割と言いますが、私のように
見た目だけを気にする鍛錬ではだめですね。トホ
ホ……。

お盆・・・平成26年7月30日

おはようございます。

毎日暑い日が続いておりますが、皆様方が
お過ごしでしょうか。お身体に気をつけてこの暑
い夏を乗り切ってほしいと思います。

私ですが、熱中症と呼ばれる病気が頭の中にこ
びりついて水分を補給しすぎてしまい、胃液を薄
め、しかもお腹を冷やして、かえって体調を悪く
してお医者さんに数日通うと言う情けない生活を
送ってしまいました。

何事もし過ぎると体に良くないと言う事を改め
て思い知らされました。

さて、長泉寺では別紙（お知らせ頁に掲載）の
ように今年もお盆の供養をさせていただきます。
8月3日から6日までお盆の施食会供養、そして
9日には永代供養された方々のお盆の供養、また
今年新盆をお迎えになられる方々のご供養をさせ
ていただきます。どうぞ、多くの方々のお参りを
お待ちしております。

さて、お盆が近づきますといろいろな方がお寺
に足を運ばれ、いろいろなご相談事をされる方

が多くあります。御仏壇のこと、お墓のこと、お位牌のこと様々なご相談の内容及ありますが、最近特に多いのは家庭での家族間のトラブルごとが増えてきたということです。故人様となられた方の遺産の相続のトラブル、あるいは墓地等の継承のトラブル等々ですが、お寺から家庭の問題の中に入り込む事はなかなか難しく、住職としても困っているのが実情です。

家庭の中の平和というのがやはり一番の幸せだと、つくづく思うお盆の季節であります。

お盆には亡くなられた仏様（ご先祖様）も帰ってまいります、遠くからお身内の方々も帰ってまいります。いわば家庭は皆が集う浄土です。そのご縁を大事に、なごやかな家庭を造って遠くにいても心が通じ合う、そのような人間関係を築いてほしいと思います。

失礼いたしました。

蚊取り線香・・・平成26年8月13日

おはようございます。

お寺はこのように広い建物ですから、夏場になりますと蚊取り線香が欠かせません。ご本堂あるいはお墓にお参りに行く時、あるいは外で草むしりや庭掃きをする時、蚊取り線香はいつも身近にあって虫除けに使う大切なものの一つです。

ところで、最近ふと、蚊取り線香を眺めて感じたことがあります。ここではメーカーさんの名前は差し控えますが、A社の蚊取り線香、B社の蚊取り線香等々、その会社で渦の巻き方が様々だと言ふことに初めて気がつきました。A社が右巻きだったら我が社では左巻きにする。そういうなんとも言えない対抗意識と言ふか、会社の独自性を打ち出そうとする、そういうお考えがあるのかもしれません。

けれども、左巻は何となくイヤですね。ワハハ・・・いや、これは失礼しました。

さて人の仕事を見ていると、掃除をする時にも雑巾をきつく絞って拭く人もいれば、ゆるく絞ってだらだらと雫を垂らして床を拭く人もいま

す。拭く布が濡れていけば雑巾が滑りやすく早く仕事が終わりますが、拭いた後はいつまでも濡れていて、これでは掃除をしているのか水でワックス掛けのように床を濡らしているのかわかりません。きつく絞れば布は滑りにくく掃除は大変です。ゆるく絞れば布がなめらかに滑って掃除をするのは楽です。けれども何のために床を拭くかを考えれば、それはゴミを拭い床をきれいにするためです。そのことをいつの間にか忘れてしまって掃除がしやすい方しやすい方へという風に人間は考えてしまいます。

仕事の上でも同じことで何のために仕事をするのか忘れて、仕事がしやすい方に私たちは流れてしまいます。

大変失礼ですけど、原子力発電所の事故も本来はこうすべきだと言うマニュアルをいつの間にか簡略化してしまって、仕事がしやすい方に人間が変更して起きたということもあつたのではないかなと思います。

禅僧が修行する僧堂においては、お師匠さんは弟子に対し、どうすれば悟りが開けるか最短な道を修行のその時々で指導してくれます。それを自分なりに解釈し変更して悟りに到達しようなどと考えれば

逆に悟りに遠くなるということを改めて修行僧の方は知っておかなければならないと思います。失礼いたしました。

終戦の日・・・平成26年9月3日

おはようございます。

秋が近づき朝夕めっきり涼しくなりました。庭には鈴虫の音が鳴り響きます。

さて、今年の8月15日の終戦記念日もまた暑い日でありました。日本武道館で行われた追悼式典にテレビを通して参列された方も多いと思います。私もテレビで参列をさせていただきました。祭壇の中央には「全国戦没者之霊」と大きな白木の塔が立っております。

実は長泉寺でも先の住職が健在だった頃より、否、おそらくは戦後まもなくの頃より戦没者のための供養のお位牌を中央にお祀りをして毎日ご供養を申し上げておりました。（余談ですが、父親は駒沢大学在学中に学徒出陣。海軍予備学生第11

期生であった。同期の方々は皆優秀で、私も何度かお会いしたが父は彼等と出会えたことを終生誇りとしていた。)

さて、私の代になり、我が国の戦没者の方々への供養も勿論ですが、世界中でいろいろな国難で亡くなられた方々への供養をもと思い、これを私は「万国殉難者諸精霊」と新しく白木のお位牌に書き、先の住職のお位牌は脇の方に移動させていただきました。現在はそれに加え「東日本大震災遭難者諸精霊」と表書きをした白木のお位牌を作り、2つ並べて毎日ご供養をしています。

(ご参考までに、檀信徒の皆様にお配りした本年のカレンダーをご覧になってみてください。)

ですから、我が国の戦没者追悼のための終戦記念日ではありますが、政府として世界中の戦争の犠牲になられた方々への追悼の言葉も併せて述べていただき平和を祈って欲しかったと思いました。

ところで今年の終戦記念日の大きな反省のひとつ、と言ってもこれは長泉寺の反省ですが、長泉寺



でも黙祷の意味を込め正午に梵鐘を打つことになっているのですが、梵鐘を打つ担当の若いお坊さんの手違いで正午に間に合いませんでした。後で私はそのお坊さんをきつく叱り、こういう時に失敗をするというのはとにかく最低である、どういう気持ちで撞かなければならないかと言う事をよく考え、毎日の禅寺での行持を勤めなければならぬと諭しました。

漫然と鳴らし物をするのではなく、鳴らし物が私たちの心に伝える意味を考え緊張して打たなければならぬ。こんな話をしたわけです。

近頃、政府は集団的自衛権などと叫び、なんだか嫌な世の中になってきました。今後もずっと戦争のない平和で幸せな日本国であるよう、強く祈った終戦記念日でした。

多忙にまかせ更新が遅くなりました。お詫びします。

お彼岸・・・平成26年9月25日

おはようございます。

今年の秋彼岸は穏やかな日に恵まれ、例年よりお墓参りの方の人出も多かったように感じました。

今年は蚊を媒介とするデング熱が大流行したので、お寺でもお盆の時の蚊の駆除に引き続き、初めてこの秋彼岸にも蚊の殺虫の消毒を実施しました。

また幼稚園でも園児たちが気持ちよく外で外遊びができるよう、毎朝先生方が草むらに殺虫剤を噴霧したり、あるいは子供たちに虫除けのスプレーをするなどその対策に努めています。しかし、相手は蚊という生き物ですから、なかなか人間の思うように駆除できないことも事実です。したがって、墓地等にお参りされる場合には各自、防虫の準備をされてお参りくださるよう、お寺としてもお願いをいたします。

さて、お中日に私もお墓にお参りにまいりました。そうしたら遠くの方から笑い声が聞こえ、楽しそうな声で賑やかに会話する女性たちの声が聞こえてきました。何だろうと思いついてみると、お墓に来られて何年ぶりかでお友人たちと会い、こんなと

ころで再会できるのも何か仏様のお導きじゃないかと言って楽しそうにお話をされているのでした。「そうか!!」お墓参りというのは亡くなられたご先祖様とだけでなく、同時にお参りの方どうし互いに心を通わせ仲良くお話をできる、そういう場でもあるのだとつくづく感じさせて頂きました。

さて、お彼岸というのはご周知のように日本だけの習慣で他の仏教圏の国ではこのような風習はありません。お彼岸の中日、即ち春は春分の日、秋は秋分の日ですが、その日は昼と夜との長さが同じ日で太陽は真東から上がり真西に沈みます。

ところで、昔から浄土というのは西にあると信じてられています。したがって、中日に沈みゆく夕陽は真西へ、つまり極楽浄土に向かって真っ直ぐのところへ沈んでまいります。ですから彼岸の中日には、その沈みゆく太陽に手を合わせ浄土に対して正面から手を合わせることが出来るわけです。この中日を挟む1週間を彼岸として亡きご先祖様を偲ぶとするこの習慣を考えた日本人の自然観というか宗教観という事に対して改めて私はあ

りがたいと思い、感動をおぼえます。

宗教離れが進んでいると叫ばれてはいますが、これからも古人に負けない宗教心を持ち続け、このようないがたい彼岸の教えをずっと伝えていけるような日本人であって欲しいと願うばかりです。

達磨忌・・・平成26年10月12日

おはようございます。

10月5日は達磨様がお亡くなりになられた日、
達磨忌だるまきでございます。

景德傳燈録けいとくでんとうろくという書物には四九五年10月5日に達磨様は百五十歳で亡くなられたと、そう書いてございます。百五十歳とい

う長寿で亡くられたのですが、達磨様はご存知のようにならぬ中国に禅を伝えられた方でございます。



嵩山すうざんの少林寺という所、少林寺拳法で有名なお寺ですが、そこで面壁九年、九年间坐禅をされました。禅の教えというのはこれだよと、ただひたすらに、お悟りを開かれたお釈迦様と同じ姿一体となって座ることだよと、座る事はそれ自体が悟りであり修行なんだと言う事を伝えられた方でございます。従いまして、その日は我が曹洞宗のお寺さんでは達磨様を偲んで法要が営まれるわけがあります。

この10月5日の達磨忌は別の意味もございまして、それはすなわち坐禅堂に夏の間、扉の代わりに、入堂する時それから退堂する時にその簾を下ろすわけなのですが、竹製の簾を冬用の布製の簾に替える日でもあります。簾を変えるという意味でこの日を関聯の日とも呼んでおります。のれん（暖簾）というのは暖かくする簾とこう書くように、竹製の通気が良い簾から風を、冷たい風の出入りを防ぐ布製の簾に替えるという日であります。

長泉寺でも坐禅堂の簾を替えそれから庫裡の方にお立てしてご来客の方々を涼しくお迎えをしております夏用の建具を冬用の襖戸に替えまし

た。気づかれる方が意外に少なく、まあそれもいいかと思うのですが、夏と冬の建具、お寺のおもてなしも季節によって替えているんだと言うことも、お寺に来た時に感じ味わって欲しいなと思います。

日に日に朝夕寒くなります。お風邪などを召さなようにお励みくださるようお祈りをいたします。

新幹線50年・・・平成26年10月22日

おはようございます。

昭和39年10月1日東海道新幹線が開業いたしました。そしてその九日後の10月10日に東京オリンピックが開会されました。私が小学校5年生の時です。

さて、今年はその東海道新幹線が開業してから50周年の節目の年に当たり、この10月1日もたくさんのお鉄道ファンで東京駅が賑わったとニュース等々で大々的に報道されました。

私は鉄道ファンではありませんので詳しい事は分かりませんが、鉄道に詳しい方から聞いた話によ

りますと、東京駅の駅長室に、大本山永平寺の貫首（永平寺第七十六世（1976-1985））はたえぎやくせんし 秦慧玉せいゑき 禅師のご染筆の「無事」と言う書が掲げられているそうです。（無事（ぶじ）これは「むじ」とも読みます）。

そして、この「無事」という書が掲げられている前で、毎朝8時半から9時まで関係の方々が集まり駅長さんを中心に朝のミーティングが開かれていると言うことでした。私は駅長室に入ったことはありませんし、どのようなご縁で禅師様の書が駅長室に飾られるようになったか、その経緯についてもわかりません。

しかし、この書は、今日一日、事故のない安穏な日であるようにという祈りの思いで掲げられているに違いないと思量されます。

例えば、『「みよゆうじん伝」』という書物の中に「今日の無事はひとえに母の御蔭なり」という言葉が出てきますが、乗客の安全を祈りながらお仕事をしている鉄道にふさわしい書だったのかもしれない。さらに『臨濟録』の中には、「無事の人」



という言葉があり、仏道に徹して、淡々として生きる人と言う意味で使われています。

東海道新幹線のその正確な時刻表は、世界から驚嘆されていますが、時刻表と実際の発着の差が1年間でもわずかに数十秒だと言っています。

我々にとってはダイヤが正確なことは当たり前と思いがちですが、1年間を通じてほとんど誤差がないという事は驚くべきことと思います。

この正確無比な定時発車の信念を貫き、励行する几帳面さは、私たちの修行に似ています。「鉄道」という修行に徹し、無心に業務（ダイヤ道）に合する生き方に励み、喜びとする姿勢は、そのまま禅で言う「平常心是道」、悟りの境地そのものです。まさに「無事是貴人」です。

いつも新幹線を利用して移動させていただいている私ですが、駅長室に無事（ぶじ・むじ）の書があるという話を聞いて、我が曹洞宗の禅師様の書が鉄道員の心の支えとなって車輛を運行していると思うと、少し誇らしい気持ちになります。

落ち葉・・・平成26年11月12日

おはようございます。

今年も市内・稻置の遠藤栄一様からご自身で作られた見事な菊をお寺に飾って下さいと、ありがたいお申し出を頂きました。多くのご参拝のお客様に喜んで頂いております。感謝、感謝です。



さて、長泉寺にはこのとおりたくさんの方の広葉樹がありますから、落ち葉を「腐葉土にしたいので譲って下さい」という方が多くて差し上げることが多かったのですが、震災後、放射能の心配からか、「腐葉土にしたいので下さい」という申し出の方が少なくなりました。否、少なくなったというよりは皆無になりました。もちろん放射線量が高いことはないのですが、いろいろな心配をされる方が多くなったのだと思います。そこで、今年も庭にたくさん枯れ葉が落ちておりますが、庭掃きして集めた落ち葉は、さらに一箇所に貯めてそれを大きな箱に積み上げ、いっぱいになったら廃棄物処理業者にお願

いをして廃棄しているわけです。

けれども、枯山水の庭にした部分はもう掃ききれま
せんで落葉し尽くすまでそのままにしておくことに
しました。せっかく枯山水の庭を見にきたのに、これ
では落ち葉の山だと、がっかりしたとの多くの声も聞
こえてまいります。どうぞこのゴミの問題と環境の
問題に長泉寺も苦勞しながら取り組んでいる現況をお
察しいただきまして少し目をつぶっていただきたいと
お許し下さい。

冬になれば雪の降った銀世界のお庭を皆様方にお約
束をいたしますのでそれまでしばらくご辛抱をお願い
したいと思います。失礼いたしました。

箸の持ち方・・・平成26年11月15日

おはようございます。

NHKの朝の連続ドラマ「マッサン」は、今、大
変な人気で視聴率も高いように伺っております。

特に「マッサン」のパートナーで奥さんのエリー
さんは、スコットランド女性でありながら、日本人
妻として生きて行きたいという大変健気な女性に描
かれていて、この姿が爽やかで人気があるように思

います。そのエリーさんが箸の使い方が出来なく
て、お姑様から意地悪をされながら豆を挟んだり
して、練習しながら努力をするシーンが放送され
ました。

さて、禅宗ではおつりようせ応量器とい
う特殊な器を用いて朝のお
粥、中食（昼食です）、薬
石（夕食です）をいただきま
す。その器の使い方は独特な
作法で大変なのですが、その
作法よりも私も修行道場で最近困っている事
は、特に若い修行僧の方々や初めて修行道場の門
を叩いた方々の箸の持ち方が非常に乱れていると
いうことです。



お箸の持ち方は鉛筆の持ち方と同じだと言われ
ていますが、どうもこれをうまく持てなかったり
使えない若者が修行に訪れるようになりました。
これは1ヶ月や2ヶ月の特訓ではなかなか直すこ
とができません。

やはり、それぞれの家庭での小さい頃からの使
い方が大事で、お箸の使い方が身に付いていない
と応量器の使い方も上手に出来ません。このよう

な生活の基本という事は、おばあちゃんお母さんそして子供というふうに伝えていてこそ我が身に染みるものだろうと思量します。

特別なところに行って修行するというのではなく、まさに身近なところに私たちの学ぶべきことは多く、しかも何気なく自然に正しい所作をしている姿こそ美しいものはないと思います。失礼をいたしました。

弔辞・・・平成26年11月24日

おはようございます。

特別企画「弔辞・・・鮮やかな人生に鮮やかな言葉」という宣伝文句に惹かれて『文藝春秋』12月号を買い求め拝読をした。ところが期待をしていた特別企画の各界著名人の弔辞は何か一つ私の心にピンとこず、いささか落胆をしてみました。ともかく、いろいろ様々な弔辞があるということだけは勉強さ

せてもらった。

それよりも私の心にとまった文章がある。それは「追憶二人の将軍」というタイトルで元陸上自衛隊幕僚長の富澤暉様がお書きになった文章である。その中に結婚式の思い出が書いてあった。

・・・結婚の時には今村均元陸軍大将に仲人を引き受けて頂いた。披露宴で私の名を（暉）を「ひかる」と読まず、「あきら」君と読んで後で奥様に叱られていたようだが、お仲人が「あきら」と呼んだら私の名付け親である佐藤春夫氏はじめ当時の鏘々たる来賓が祝辞で全員「あきら」君で通した。これには「明治」を感じたものである。・・・という文章である。

仲人を引き受けて下さって挨拶をされた方は有名な今村閣下である。面前で閣下に恥をかかせることをせず、閣下に右ならえで淡々として故意に間違っつて言うあたり、その当時の方々のなんと言っか心意気というものを感じた。流石というべきであろう。

さて、弔辞といえば、昔からの常套句である「溘焉(こうえん)として逝去されました」というフレーズ(にわかにお亡くなりになったという

意味)や「長逝されました」、すなわち永久に逝って帰らぬこと、つまり末永く浄土で安らかに眠るという意味でしょうが、そのような昔からの弔辞の常套句は今、なかなか聞くことが出来なくなった。

時代の趨勢と言えはそれまでだが、弔辞というものにはある程度形式というものがあって然るべきではないかと思う。文語調で学術的な弔辞も困りものだが、かと言って口語調で品性のないのも聞くにたえない。ちよつと葬儀の度に寂しく感じる近頃である。

なお、富澤氏は上記の文章に続き、下記の如く今村閣下の思い出を書いておられる。銘すべきであろう。

・・・防大に入ったばかりの頃、私は不躰にも「私も軍人になりますので、死生観について教えて下さい」とお聞きしたことがあった。閣下は静かに「私に死生観をお教えることは出来ません」と言われた。

「恥ずかしいことですが、実は私はラバウルの始末が一応ついた時に、自決しようとして失敗してしまいました。飲んだ薬が古くなっていて効かなかったのです。それ以来、死というものを自分で決めることは出来ないと考えています」とのことであった。今村閣下は若造に対しても、素直に丁寧に、お話しして下さる方であった。・・・

夫婦円満・・・平成26年12月29日

おはようございます。

今年も残すところあとわずかとなりました。皆様方今年1年はどのような1年だったでしょうか。今年1年を振り返り、清々しい新年を迎える意味で長泉寺では毎年大晦日夜11時から除夜の鐘をお届けしております。どうぞ皆様方も奮って撞きにお越しくくださるようお待ちしております。

例年通り紅白の鐘餅と温かい年越しそば、甘い甘酒を準備しております。ご家族様おそろいでおいでくださるようお待ちしております。

さて角田市の広報「広報かくだ・新年号」によりますと、本年11月30日現在の人口は3万7百66人でした。私の推測では、今年お生まれになった赤ちゃんの数からお亡くなりになられた方の数を差し引ますと二百50人ほどのマイナスとなる計算になります。したがって、単純に考えればあと3年ほどで角田市は残念ながら3万人を割る計算となってしまいます。非常に寂しく残念でなりません。市長様はじめ各方面の方々も人口をどのようにして増やすか腐心されているとは思いますが

が、私なりに一つ案を申しあげたいと思います。

それは「律儀者の子沢山」と言う諺ことわざです。すなわち、律儀な男は遊びにふけったりすることもないので自然と夫婦仲も良くなり、その結果、子供が沢山生まれるという諺が昔から言われておりますが、そのように夫婦仲が良い、円満な家庭を作るということがひいては人口増加につながるのではないかと考えているのです。

これは明治安田生命保険相互会社が毎年11月22日（いい夫婦の日）にちなんでアンケート調査をしている報告によりますと、夫婦円満のためには何が必要だと思えますか？という問いに対して、やはりよく会話をするのが一番だと答えたご夫婦が非常に多いという結果が出ています。愛情度が高いから会話が増えるのか、会話が多いから愛情度が高まるのかはわかりませんが、ともあれ夫婦間の愛情を高めるためには会話によるコミュニケーションが重要だと言つふうに考えている人が多いことがわかんと思えます。

家庭円満で夫婦喧嘩をしない家庭であれば子供たちもすくすくのびのびと安定した心で育つことが出来るのは間違いありません。

次に、これから紹介をいたします都々逸は私が会長を勤めさせていただいております角田・丸森地区防火管理者協議会で紹介をした都々逸ですが、「目から火の出る所帯を持ってど火事さえ出さなきや水入らず」という都々逸です。家庭円満そして家内安全これに努め家庭から明るい笑い声と楽しい会話そういう家庭の中にこそ社会を良い方向にしていく原動力が生まれると思います。そう信じて来年も平和で明るい社会になるよう祈りたいものだと思います。それでは除夜の鐘の時に皆さんとお会いしましょう。今年一年ありがとうございました。

あけましておめでとつございます・・・平成27年1月1日

あけましておめでとつございます。

皆様方におかれましては良い春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年も何卒よろしくお願いいたします。お餅はたくさん召し上が